

あと1年しかない！HPVワクチンのキャッチアップ接種 ワクチンを接種しなくて大丈夫ですか？

婦人科部長 衛藤 貴子

HPVワクチンの接種状況に関する検討



積極的勧奨が中止されていた間にHPVワクチンをうちそびれた世代が、無料で接種できるキャッチアップ接種（1997～2007年度生まれ女子）も、残すところあと1年をきりました。2024年度いっぱいです。

2022年度までの、生まれ年度毎のHPVワクチン接種率が報告されました。

1994～1999年度生まれは、積極的勧奨が中止となる前の2012年までにすでに70%前後が接種していました。それ以下の世代では、2005年度生まれが接種率が最も高く、それでも31.6%しか接種していません。2001、2002年度生まれは10%にも満たない状況です。

2012年までに70%前後接種していた世代

定期接種世代

生まれ年度	2022年度に達する年齢	2022年度までの累積接種
1994	28	53.4
1995	27	74.4
1996	26	78.2
1997	25	81.8
1998	24	80.8
1999	23	71.8
2000	22	20.0
2001	21	9.1
2002	20	9.3
2003	19	10.8
2004	18	18.2
2005	17	31.6
2006	16	25.2
2007	15	16.7
2008	14	12.9
2009	13	8.1
2010	12	2.8

第100回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和5年度第15回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会 資料3-2
2024(令和6)年1月26日



70%の接種率が0%となったら、生まれ年度あたり、およそ4500人が頸がんにかかり、1100人が頸がんて命を落とすと推定されています

ある報告では、例えば200x年度生まれの接種率が0%だったとしたら、70%接種していたのとは比べると200x年度生まれのうち、4500人が余計に頸がんにかかり、1100人が命を落とすと推定されています。（Yagi A et al. Sci Rep. 2020 ;10(1):15945より）。同級生が1100人も命を落とすなんて想像できますか？

子宮頸がんの予防（ワクチンと検診）について、しっかりと知識をもって、HPVワクチン接種する・しないについて考えましょう。

HPVワクチン接種するなら、ワクチンの効果の点からは、少しでも早い方が好ましいですよ。



対象の方に、ご自身で十分に考えて、安心してワクチン接種をしていただけるよう、当院では有効性、副反応のリスクなどについての説明に努めています。



お問い合わせは婦人科外来まで（病院代表）092-541-4936